令和4年度評価基準 教科 国語　学年　第4学年　△知技　◇話すこと・聞くこと

単元名・教材名	単元の目標	評価規準
四年生で学ぶこと		
言葉に親しもう		
わたしは，だあれ	◇自分の知りたいことを明確にして，質問をする。 △言葉には，考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。　⇒◎知技(1)ア △相手を見て話したり聞いたりするとともに，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などに注意して話すこと。　⇒知技(1)イ ◇目的を意識して，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を比較したり分類したりして，伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。　⇒思判表Ａ(1)ア ◇相手に伝わるように，理由や事例などを挙げながら，話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。　⇒思判表Ａ(1)イ ◇話の中心や話す場面を意識して，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などを工夫すること。　⇒思判表Ａ(1)ウ ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き，話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え，自分の考えをもつこと。　⇒◎思判表Ａ(1)エ ◇質問するなどして情報を集めたり，それらを発表したりする活動。　⇒思判表Ａ(2)イ	◎【知技】言葉には，考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア） ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において，必要なことを記録したり質問したりしながら聞き，話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え，自分の考えをもっている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ａエ） 【態度】積極的に必要なことを記録したり質問したりしながら聞き，学習の見通しをもって，自分のカードに書いてある名前をあてようとしている。
春のうた あり	□◇声に出して読んだり，共通点や相違点に気をつけて話したり聞いたりすることを楽しみ，国語学習への意欲をもつ。 □言葉の響きに気をつけながら，工夫して音読する。 △相手を見て話したり聞いたりするとともに，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などに注意して話すこと。　⇒知技(1)イ △文章全体の内容や構成の大体を意識しながら音読すること。　⇒◎知技(1)ク △幅広く読書に親しみ，読書が，必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。　⇒知技(3)オ □場面の移り変わりや登場人物の行動，気持ちの変化などについて，叙述を基に捉えること。　⇒思判表Ｃ(1)イ □登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。　⇒◎思判表Ｃ(1)エ □詩や物語などを読み，内容を説明したり，考えたことなどを伝え合ったりする活動。　⇒思判表Ｃ(2)イ	◎【知技】文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） ◎【思判表】「読むこと」において，登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃエ） 【態度】進んで，登場人物の気持ちの変化や情景について具体的に想像し，学習の見通しをもって音読したりイメージを広げたりしようとしている。
一　場面の様子や，登場人物の気持ちを想像しながら読もう	□松井さんの行動や気持ちを考えながら読み，松井さんになって，「この日」のできごとを日記に書く。	
白いぼうし	△様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し，語彙を豊かにすること。　⇒◎知技(1)オ △文章全体の内容や構成の大体を意識しながら音読すること。　⇒知技(1)ク △考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。　⇒知技(2)ア △幅広く読書に親しみ，読書が，必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。　⇒知技(3)オ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。　⇒思判表Ｂ(1)ウ	◎【知技】様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増し，言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し，語彙を豊かにしている。（〔知識及び技能〕(1)オ） 【思判表】「書くこと」において，自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ） ◎【思判表】「読むこと」において，登場人物の行動や気持ちなどについて，叙述を基に捉えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃイ）

	■書こうとしたことが明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けること。　⇒思判表Ｂ(1)オ □場面の移り変わりや登場人物の行動，気持ちの変化などについて，叙述を基に捉えること。　⇒◎思判表Ｃ(1)イ □登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。　⇒◎思判表Ｃ(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもつこと。　⇒思判表Ｃ(1)オ □文章を読んで感じたことや考えたことを共有し，一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。　⇒思判表Ｃ(1)カ ■詩や物語をつくるなど，感じたことや想像したことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ウ □詩や物語などを読み，内容を説明したり，考えたことなどを伝え合ったりする活動。　⇒思判表Ｃ(2)イ ☆道徳：物語の読みをとおして，相手のことを思いやったり，親切にしたり，真心をもって接することについて考える。	◎【思判表】「読むこと」において，登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃエ） 【態度】進んで登場人物の気持ちや性格，情景について具体的に想像し，今までの学習を生かして，登場人物になったつもりで日記を書こうとしている。
ぴったりの言葉，見つけよう	■心が動いたできごとを，短い文章で表現する。 △言葉には，考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。　⇒◎知技(1)ア △漢字と仮名を用いた表記，送り仮名の付け方，改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに，句読点を適切に打つこと。また，第３学年においては，日常使われている簡単な単語について，ローマ字で表記されたものを読み，ローマ字で書くこと。　⇒◎知技(1)ウ △様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し，語彙を豊かにすること。　⇒知技(1)オ ■相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒◎思判表Ｂ(1)ア ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。　⇒思判表Ｂ(1)ウ ■詩や物語をつくるなど，感じたことや想像したことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ウ	◎【知技】言葉には，考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア） ◎【知技】漢字と仮名を用いた表記，送り仮名の付け方，改行の仕方を理解して文や文章の中で使っているとともに，句読点を適切に打っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） ◎【思判表】「書くこと」において，相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にしている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂア）
漢字の広場　① 漢字の部首	△漢字の部首について知り，漢字を覚えたり使ったりするときに役立てる。 △第３学年及び第４学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。　⇒知技(1)エ △漢字が，へんやつくりなどから構成されていることについて理解すること。　⇒◎知技(3)ウ	◎【知技】漢字が，へんやつくりなどから構成されていることについて理解している。（〔知識及び技能〕(3)ウ） 【態度】進んで，漢字がへんやつくりなどから構成されていることについて理解し，学習の見通しをもって，漢字を覚えたり使ったりするときに役立てようとしている。

漢字の広場　① 三年生で学んだ漢字　①	△絵を見て想像したことをもとに，３年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第３学年及び第４学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。　⇒◎知技(1)エ △丁寧な言葉を使うとともに，敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。　⇒知技(1)キ ■書こうとしたことが明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けること。　⇒◎思判表Ｂ(1)オ ■詩や物語をつくるなど，感じたことや想像したことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ウ	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ） 【思判表】「書くこと」において，書こうとしたことが明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂオ） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い，学習課題に沿って，教科書の絵の中の言葉を使って文を書こうとしている。
ぞうの重さを量る	□象の重さを量るという問題をつかむ過程や解決する過程の考えの筋道を，叙述をおさえながら読む。 △主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解すること。　⇒◎知技(1)カ △考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。　⇒◎知技(2)ア △比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うこと。　⇒知技(2)イ □段落相互の関係に着目しながら，考えとそれを支える理由や事例との関係などについて，叙述を基に捉えること。　⇒◎思判表Ｃ(1)ア □目的を意識して，中心となる語や文を見付けて要約すること。　⇒思判表Ｃ(1)ウ □記録や報告などの文章を読み，分かったことや考えたことを，本文を引用しながら説明したり意見を述べたりする活動。　⇒思判表Ｃ(2)ア	◎【知技】主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解している。（〔知識及び技能〕(1)カ） ◎【知技】考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア） ◎【思判表】「読むこと」において，段落相互の関係に着目しながら，考えとそれを支える理由や事例との関係などについて，叙述を基に捉えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃア） 【態度】粘り強く，考えとそれを支える理由や事例との関係などについて叙述を基に捉え，学習の見通しをもって，考える筋道をつかもうとしている。
花を見つける手がかり	□「もんしろちょうは何を手がかりに花を見つけるか」という問題を解明していく一つ一つの実験の結果とそこから引き出される結論，実験を繰り返していく考えの筋道などを，叙述をおさえながら読む。 △主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解すること。　⇒◎知技(1)カ △考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。　⇒◎知技(2)ア △比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うこと。　⇒知技(2)イ △幅広く読書に親しみ，読書が，必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。　⇒知技(3)オ ■書く内容の中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考えること。　⇒思判表Ｂ(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。　⇒思判表Ｂ(1)ウ □段落相互の関係に着目しながら，考えとそれを支える理由や事例との関係などについて，叙述を基に捉えること。　⇒◎思判表Ｃ(1)ア □目的を意識して，中心となる語や文を見付けて要約すること。　⇒◎思判表Ｃ(1)ウ □文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもつこと。　⇒思判表Ｃ(1)オ □文章を読んで感じたことや考えたことを共有し，一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。　⇒思判表Ｃ(1)カ ■調べたことをまとめて報告するなど，事実やそれを基に考えたことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ア □記録や報告などの文章を読み，分かったことや考えたことを，本文を引用しながら説明したり意見を述べたりする活動。　⇒思判表Ｃ(2)ア	◎【知技】主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解している。（〔知識及び技能〕(1)カ） ◎【知技】考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア） 【思判表】「書くこと」において，自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ） ◎【思判表】「読むこと」において，段落相互の関係に着目しながら，考えとそれを支える理由や事例との関係などについて，叙述を基に捉えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃア） ◎【思判表】「読むこと」において，目的を意識して，中心となる語や文を見付けて要約している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃウ） 【態度】粘り強く，考えとそれを支える理由や事例との関係などについて叙述を基に捉え，学習の見通しをもって，結果と結論のつながりを捉えようとしている。

分類をもとに本を見つけよう	△地域の図書館へ行き，「日本十進分類法」を利用して本を探して読んだり，図書館の分類の仕方を確かめたりする。 △「日本十進分類法」のしくみを知り，本を探すときに役立てる。 △「日本十進分類法」のしくみを知り，分類記号を手がかりに本を探して読む。 △考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。　⇒◎知技(2)ア △比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うこと。　⇒◎知技(2)イ △幅広く読書に親しみ，読書が，必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。　⇒◎知技(3)オ □目的を意識して，中心となる語や文を見付けて要約すること。　⇒◎思判表C(1)ウ □文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもつこと。　⇒思判表C(1)オ □記録や報告などの文章を読み，分かったことや考えたことを，本文を引用しながら説明したり意見を述べたりする活動。　⇒思判表C(2)ア □学校図書館などを利用し，事典や図鑑などから情報を得て，分かったことなどをまとめて説明する活動。　⇒思判表C(2)ウ ☆社会，理科，　総合：調べ学習で本を探す	◎【知技】考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア） ◎【知技】比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使っている。（〔知識及び技能〕(2)イ） ◎【知技】幅広く読書に親しみ，読書が，必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。（〔知識及び技能〕(3)オ） ◎【思判表】「読むこと」において，目的を意識して，中心となる語や文を見付けて要約している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Cウ） 【態度】進んで比較や分類の仕方を理解し，学習の見通しをもって，分類記号を手がかりに本を探して読もうとしている。
メモの取り方をくふうして聞こう	◇相手の話の大切なことを落とさないように，工夫してメモを取りながら話を聞く。 △相手を見て話したり聞いたりするとともに，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などに注意して話すこと。　⇒知技(1)イ △主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解すること。　⇒知技(1)カ △丁寧な言葉を使うとともに，敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。　⇒知技(1)キ △比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うこと。　⇒◎知技(2)イ ◇目的を意識して，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を比較したり分類したりして，伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。　⇒思判表A(1)ア ◇相手に伝わるように，理由や事例などを挙げながら，話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。　⇒思判表A(1)イ ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き，話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え，自分の考えを持つこと。　⇒◎思判表A(1)エ ◇説明や報告など調べたことを話したり，それらを聞いたりする活動。　⇒思判表A(2)ア	◎【知技】比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使っている。（〔知識及び技能〕(2)イ） ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において，必要なことを記録したり質問したりしながら聞き，話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え，自分の考えをもっている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Aエ） 【態度】進んで必要なことを記録したり質問したりしながら聞き，話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え，学習の見通しをもって，大切なことを落とさないように聞こうとしている。
漢字辞典の引き方	△漢字辞典の引き方を理解し，活用する。 △第３学年及び第４学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。　⇒知技(1)エ △比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うこと。　⇒◎知技(2)イ △漢字が，へんやつくりなどから構成されていることについて理解すること。　⇒知技(3)ウ	◎【知技】比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使っている。（〔知識及び技能〕(2)イ） 【態度】積極的に辞書や事典の使い方を理解し，学習の見通しをもって漢字辞典を活用しようとしている。
三　伝わりやすい組み立てを考えて書こう	■リーフレットの特徴を生かした組み立てを考え，見学したことや調べたことを報告する。	

リーフレットで知らせよう	△漢字と仮名を用いた表記，送り仮名の付け方，改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに，句読点を適切に打つこと。また，第３学年においては，日常使われている簡単な単語について，ローマ字で表記されたものを読み，ローマ字で書くこと。　⇒◎知技(1)ウ △主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解すること。　⇒知技(1)カ △丁寧な言葉を使うとともに，敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。　⇒知技(1)キ △考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。　⇒知技(2)ア △比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うこと。　⇒知技(2)イ ■相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒思判表Ｂ(1)ア ■書く内容の中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考えること。　⇒◎思判表Ｂ(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。　⇒◎思判表Ｂ(1)ウ ■間違いを正したり，相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして，文や文章を整えること。 ⇒◎思判表Ｂ(1)エ ■書こうとしたことが明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けること。　⇒思判表Ｂ(1)オ ■調べたことをまとめて報告するなど，事実やそれを基に考えたことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ア ☆社会科：社会科見学との関連を図ることができる。	◎【知技】漢字と仮名を用いた表記，送り仮名の付け方，改行の仕方を理解して文や文章の中で使っているとともに，句読点を適切に打っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） ◎【思判表】「書くこと」において，書く内容の中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂイ） ◎【思判表】「書くこと」において，自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ） ◎【思判表】「書くこと」において，間違いを正したり，相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして，文や文章を整えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂエ） 【態度】積極的に，書く内容の中心を明確にし，文章の構成を考え，学習の見通しをもってリーフレットの組み立てを考えようとしている。
短歌の世界	△短歌を声に出して読み，言葉のリズムにふれる。 △易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして，言葉の響きやリズムに親しむこと。　⇒◎知技(3)ア △幅広く読書に親しみ，読書が，必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。　⇒知技(3)オ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。　⇒◎思判表Ｂ(1)ウ ■詩や物語をつくるなど，感じたことや想像したことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ウ ☆道徳：我が国や郷土の伝統と文化を大切にする。 ☆図書館活用：短歌への関心を広げる。	◎【知技】易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして，言葉の響きやリズムに親しんでいる。（〔知識及び技能〕(3)ア） 【思判表】「書くこと」において，自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ） 【態度】進んで易しい文語調の短歌を音読したり暗唱したりするなどし，学習の見通しをもって，言葉のリズムを楽しんだり様子や気持ちを想像したりしようとしている。
漢字の広場　② 漢字の音を表す部分	△形声文字における部首と音符について知り，漢字を覚えたり使ったりするときに役立てる。 △第３学年及び第４学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。　⇒知技(1)エ △比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うこと。　⇒知技(2)イ △漢字が，へんやつくりなどから構成されていることについて理解すること。　⇒◎知技(3)ウ	◎【知技】漢字が，へんやつくりなどから構成されていることについて理解している。（〔知識及び技能〕(3)ウ） 【態度】進んで漢字がへんやつくりなどから構成されていることについて理解し，学習課題に沿って，「音を表す部分」を漢字を覚えたり使ったりすることに役立てようとしている。

漢字の広場　② 三年生で学んだ漢字　②	△絵を見て想像したことをもとに，３年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第３学年及び第４学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。　⇒◎知技(1)エ △丁寧な言葉を使うとともに，敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。　⇒知技(1)キ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。　⇒◎思判表Ｂ(1)ウ ■詩や物語をつくるなど，感じたことや想像したことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ウ	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ） 【思判表】「書くこと」において，自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い，学習課題に沿って，教科書の絵の中の言葉を使って文を書こうとしている。
四　登場人物のせいかくや，気持ちを想像して読もう	□場面や人物の様子を想像しながら，落語を音読したり，演じたりする。	
ぞろぞろ（落語）	△相手を見て話したり聞いたりするとともに，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などに注意して話すこと。　⇒◎知技(1)イ △主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解すること。　⇒知技(1)カ △考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。　⇒知技(2)ア △幅広く読書に親しみ，読書が，必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。　⇒知技(3)オ ◇話の中心や話す場面を意識して，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などを工夫すること。　⇒思判表Ａ(1)ウ □場面の移り変わりや登場人物の行動，気持ちの変化などについて，叙述を基に捉えること。　⇒◎思判表Ｃ(1)イ □登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。　⇒◎思判表Ｃ(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもつこと。　⇒思判表Ｃ(1)オ ◇説明や報告など調べたことを話したり，それらを聞いたりする活動。　⇒思判表Ａ(2)ア □詩や物語などを読み，内容を説明したり，考えたことなどを伝え合ったりする活動。　⇒思判表Ｃ(2)イ	◎【知技】相手を見て話したり聞いたりしているとともに，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などに注意して話している。（〔知識及び技能〕(1)イ） 【思判表】「話すこと・聞くこと」において，話の中心や話す場面を意識して，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などを工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ａウ） ◎【思判表】「読むこと」において，登場人物の行動や気持ちなどについて，叙述を基に捉えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃイ） ◎【思判表】「読むこと」において，登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃエ） 【態度】進んで登場人物の気持ちの変化や性格，情景について具体的に想像し，学習の見通しをもって，落語を音読したり演じたりしようとしている。
「夏の思い出」記者になろう	◇話し手がどんなことを伝えたいのかを考えながら，質問をする。 △言葉には，考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。　⇒◎知技(1)ア △相手を見て話したり聞いたりするとともに，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などに注意して話すこと。　⇒知技(1)イ △丁寧な言葉を使うとともに，敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。　⇒知技(1)キ ◇目的を意識して，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を比較したり分類したりして，伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。　⇒思判表Ａ(1)ア ◇相手に伝わるように，理由や事例などを挙げながら，話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。　⇒思判表Ａ(1)イ ◇話の中心や話す場面を意識して，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などを工夫すること。　⇒思判表Ａ(1)ウ ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き，話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え，自分の考えを持つこと。　⇒◎思判表Ａ(1)エ ◇質問するなどして情報を集めたり，それらを発表したりする活動。　⇒思判表Ａ(2)イ	◎【知技】言葉には，考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア） ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において，必要なことを記録したり質問したりしながら聞き，話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え，自分の考えをもっている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ａエ） 【態度】積極的に必要なことを記録したり質問したりしながら聞き，話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え，学習の見通しをもって，相手の話を引き出す質問をしようとしている。

五　写真などの図のよさを知り，活用しよう	◇写真は撮り方によって見る人に与える感じが異なることに気づき，写真や図を効果的に用いて表現する。	
写真をもとに話そう	◇伝えたいことをはっきりさせて，理由や事例などをあげながら筋道を立てて話す。 △相手を見て話したり聞いたりするとともに，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などに注意して話すこと。　⇒◎知技(1)イ △丁寧な言葉を使うとともに，敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。　⇒知技(1)キ △考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。　⇒◎知技(2)ア ◇目的を意識して，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を比較したり分類したりして，伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。　⇒思判表Ａ(1)ア ◇相手に伝わるように，理由や事例などを挙げながら，話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。　⇒◎思判表Ａ(1)イ ◇話の中心や話す場面を意識して，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などを工夫すること。　⇒◎思判表Ａ(1)ウ ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き，話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え，自分の考えを持つこと。　⇒思判表Ａ(1)エ ◇目的や進め方を確認し，司会などの役割を果たしながら話し合い，互いの意見の共通点や相違点に着目して，考えをまとめること。　⇒思判表Ａ(1)オ ◇説明や報告など調べたことを話したり，それらを聞いたりする活動。　⇒思判表Ａ(2)ア ☆特別活動（朝の会など）：メモをもとにスピーチをする。	◎【知技】相手を見て話したり聞いたりしているとともに，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などに注意して話している。（〔知識及び技能〕(1)イ） ◎【知技】考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア） ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において，相手に伝わるように，理由や事例などを挙げながら，話の中心が明確になるように話の構成を考えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ａイ） ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において，話の中心や話す場面を意識して，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などを工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ａウ） 【態度】粘り強く，理由や事例などを挙げながら話の中心が明確になるように構成を考え，学習の見通しをもって，写真から読み取ったことを話そうとしている。
新聞を作ろう	■割り付けを工夫して，わかりやすい紙面の新聞を作る。 △漢字と仮名を用いた表記，送り仮名の付け方，改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに，句読点を適切に打つこと。また，第３学年においては，日常使われている簡単な単語について，ローマ字で表記されたものを読み，ローマ字で書くこと。　⇒◎知技(1)ウ △丁寧な言葉を使うとともに，敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。　⇒知技(1)キ △考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。　⇒◎知技(2)ア ■相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒思判表Ｂ(1)ア ■書く内容の中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考えること。　⇒思判表Ｂ(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。　⇒◎思判表Ｂ(1)ウ ■間違いを正したり，相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして，文や文章を整えること。　⇒◎思判表Ｂ(1)エ ■書こうとしたことが明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けること。　⇒思判表Ｂ(1)オ ■調べたことをまとめて報告するなど，事実やそれを基に考えたことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ア	◎【知技】漢字と仮名を用いた表記，送り仮名の付け方，改行の仕方を理解して文や文章の中で使っているとともに，句読点を適切に打っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） ◎【知技】考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア） ◎【思判表】「書くこと」において，自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ） ◎【思判表】「書くこと」において，間違いを正したり，相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして，文や文章を整えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂエ） 【態度】粘り強く間違いを正したり文章を整えたりし，学習の見通しをもって新聞を作ろうとしている。
漢字の広場　③ 送りがなのつけ方	△送り仮名は，漢字の読みや意味をはっきりさせるはたらきをもつことを理解し，漢字を正しく使う。 △漢字と仮名を用いた表記，送り仮名の付け方，改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに，句読点を適切に打つこと。また，第３学年においては，日常使われている簡単な単語について，ローマ字で表記されたものを読み，ローマ字で書くこと。　⇒◎知技(1)ウ △第３学年及び第４学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。　⇒知技(1)エ	◎【知技】漢字と仮名を用いた表記，送り仮名の付け方，改行の仕方を理解して文や文章の中で使っているとともに，句読点を適切に打っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） 【態度】進んで送り仮名の付け方を理解して文や文章の中で使い，学習課題に沿って，漢字を正しく使おうとしている。

都道府県名に用いる漢字	△都道府県名に用いる漢字などを使って文を書く。 △第３学年及び第４学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。　⇒◎知技(1)エ △丁寧な言葉を使うとともに，敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。　⇒知技(1)キ ■相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒思判表Ｂ(1)ア ■詩や物語をつくるなど，感じたことや想像したことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ウ	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ） 【思判表】「書くこと」において，相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にしている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂア） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い，学習課題に沿って，都道府県名を覚えたり書いたりしようとしている。
漢字の広場　③ 三年生で学んだ漢字　③	△絵を見て想像したことをもとに，３年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第３学年及び第４学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。　⇒◎知技(1)エ △丁寧な言葉を使うとともに，敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。　⇒知技(1)キ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。 ⇒◎思判表Ｂ(1)ウ ■詩や物語をつくるなど，感じたことや想像したことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ウ	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ） 【思判表】「書くこと」において，自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い，学習課題に沿って，教科書の絵の中の言葉を使って文を書こうとしている。
六　場面の様子をくらべて読み，感想をまとめよう	□登場人物の思いを想像しながら，二つの場面を比べて読み，読んだ感想を友達に伝える。	
一つの花	△様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し，語彙を豊かにすること。　⇒◎知技(1)オ △主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解すること。　⇒知技(1)カ △考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。　⇒◎知技(2)ア △幅広く読書に親しみ，読書が，必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。　⇒知技(3)オ ■相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒思判表Ｂ(1)ア ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。　⇒思判表Ｂ(1)ウ ■書こうとしたことが明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けること。　⇒思判表Ｂ(1)オ □場面の移り変わりや登場人物の行動，気持ちの変化などについて，叙述を基に捉えること。　⇒思判表Ｃ(1)イ □登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。　⇒◎思判表Ｃ(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもつこと。　⇒◎思判表Ｃ(1)オ □文章を読んで感じたことや考えたことを共有し，一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。　⇒思判表Ｃ(1)カ ■詩や物語をつくるなど，感じたことや想像したことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ウ □詩や物語などを読み，内容を説明したり，考えたことなどを伝え合ったりする活動。　⇒思判表Ｃ(2)イ ☆道徳：物語の読みをとおして，生きることを喜び，生命を大切にする心をもつことについての考え方を深める。	◎【知技】様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増し，言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し，語彙を豊かにしている。（〔知識及び技能〕(1)オ） ◎【知技】考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア） 【思判表】「書くこと」において，相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にしている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂア） ◎【思判表】「読むこと」において，登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃエ） ◎【思判表】「読むこと」において，文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもっている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃオ） 【態度】積極的に，文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち，学習の見通しをもって，心に残った場面をもとに感想文を書こうとしている。

いろいろな手紙を書こう	■手紙の書き方を知り，送る相手や伝える目的に合わせて手紙を書く。 △言葉には，考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。　⇒知技(1)ア △漢字と仮名を用いた表記，送り仮名の付け方，改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに，句読点を適切に打つこと。また，第３学年においては，日常使われている簡単な単語について，ローマ字で表記されたものを読み，ローマ字で書くこと。　⇒知技(1)ウ △様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し，語彙を豊かにすること。　⇒知技(1)オ △丁寧な言葉を使うとともに，敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。　⇒◎知技(1)キ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。　⇒思判表Ｂ(1)ウ ■間違いを正したり，相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして，文や文章を整えること。 ⇒◎思判表Ｂ(1)エ ■行事の案内やお礼の文章を書くなど，伝えたいことを手紙に書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)イ	◎【知技】丁寧な言葉を使っているとともに，敬体と常体との違いに注意しながら書いている。（〔知識及び技能〕(1)キ） ◎【思判表】「書くこと」において，間違いを正したり，相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして，文や文章を整えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂエ） 【態度】粘り強く間違いを正したり，相手や目的を意識した表現になっているかを確かめ，学習の見通しをもって，送る相手や伝える目的に合わせた手紙を書こうとしている。
修飾語	△文の中での修飾語のはたらきを理解する。 △様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し，語彙を豊かにすること。　⇒知技(1)オ △主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解すること。　⇒◎知技(1)カ △言葉には，考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。　⇒知技(1)ア △漢字と仮名を用いた表記，送り仮名の付け方，改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに，句読点を適切に打つこと。また，第３学年においては，日常使われている簡単な単語について，ローマ字で表記されたものを読み，ローマ字で書くこと。　⇒◎知技(1)ウ △主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解すること。　⇒知技(1)カ ■相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒◎思判表Ｂ(1)ア ■書く内容の中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考えること。　⇒思判表Ｂ(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。　⇒思判表Ｂ(1)ウ ■間違いを正したり，相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして，文や文章を整えること。 ⇒思判表Ｂ(1)エ ■書こうとしたことが明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けること。　⇒思判表Ｂ(1)オ ■詩や物語をつくるなど，感じたことや想像したことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ウ	◎【知技】主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解している。（〔知識及び技能〕(1)カ） 【態度】進んで修飾と被修飾との関係について理解し，学習の見通しをもって，修飾語を見つけたり，修飾語の種類を見分けたりしようとしている。 ◎【知技】漢字と仮名を用いた表記，送り仮名の付け方，改行の仕方を理解して文や文章の中で使っているとともに，句読点を適切に打っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） ◎【思判表】「書くこと」において，相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にしている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂア） 【態度】積極的に，相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりし，学習の見通しをもって「ショートショート」を書こうとしている。

「月」のつく言葉	△昔から「月」に対してさまざまな呼称があったことを知り，「月」に関係する言葉を集める。 △比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うこと。　⇒知技(2)イ △易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして，言葉の響きやリズムに親しむこと。　⇒◎知技(3)ア ■相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒◎思判表Ｂ(1)ア ■記録や報告などの文章を読み，分かったことや考えたことを，本文を引用しながら説明したり意見を述べたりする活動。　⇒思判表Ｂ(2)ア	◎【知技】易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして，言葉の響きやリズムに親しんでいる。（〔知識及び技能〕(3)ア） 【思判表】「書くこと」において，相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にしている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂア） 【態度】進んで「月」に関わる言葉を音読するなどして言葉の響きやリズムに親しみ，学習の見通しをもって「月」に関係する言葉を集めようとしている。

令和4年度評価規準 教科 国語　学年　第4学年 △知技　◇話すこと・聞くこと　■書くこと　□読むこと　☆他教科と

単元名・教材名	単元の目標	評価規準
四年生で学ぶこと		
一　場面のうつりかわりと結びつけ，登場人物の変化を読もう	□人物の気持ちや場面が移り変わるおもしろさを読み，読書の世界を豊かにする。	
ごんぎつね	△様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し，語彙を豊かにすること。 ⇒◎知技(1)オ △考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。　⇒知技(2)ア ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。　⇒思判表Ｂ(1)ウ □場面の移り変わりや登場人物の行動，気持ちの変化などについて，叙述を基に捉えること。　⇒思判表Ｃ(1)イ □登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。　⇒◎思判表Ｃ(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもつこと。　⇒◎思判表Ｃ(1)オ □文章を読んで感じたことや考えたことを共有し，一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。　⇒思判表Ｃ(1)カ □詩や物語などを読み，内容を説明したり，考えたことなどを伝え合ったりする活動。　⇒思判表Ｃ(2)イ ☆道徳：物語の読みをとおして，生命の尊さを感じ取り，生命あるものについての見方を深める。	◎【知技】様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増し，言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し，語彙を豊かにしている。（〔知識及び技能〕(1)オ） 【思判表】「書くこと」において，自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ） ◎【思判表】「読むこと」において，登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃエ） ◎【思判表】「読むこと」において，文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもっている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃオ） 【態度】積極的に，登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し，学習の見通しをもって物語のポスターを作ろうとしている。
「読書発表会」をしよう	△紹介したい本を何冊か選び，「読書発表会」で発表する。 △紹介したい本を何冊か選び，「読書発表会」をし，読書の幅を広げる。 △主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解すること。　⇒知技(1)カ △文章全体の内容や構成の大体を意識しながら音読すること。　⇒知技(1)ク △考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。　⇒知技(2)ア △比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うこと。　⇒◎知技(2)イ △幅広く読書に親しみ，読書が，必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。　⇒◎知技(3)オ □登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。　⇒思判表Ｃ(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもつこと。　⇒思判表Ｃ(1)オ □文章を読んで感じたことや考えたことを共有し，一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。　⇒◎思判表Ｃ(1)カ □詩や物語などを読み，内容を説明したり，考えたことなどを伝え合ったりする活動。　⇒思判表Ｃ(2)イ □学校図書館などを利用し，事典や図鑑などから情報を得て，分かったことなどをまとめて説明する活動。　⇒思判表Ｃ(2)ウ ☆図書館指導：紹介カードや感想交流コーナーを活用して，読書の幅を広げ合う。	◎【知技】比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使っている。（〔知識及び技能〕(2)イ） ◎【知技】幅広く読書に親しみ，読書が，必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。（〔知識及び技能〕(3)オ） ◎【思判表】「読むこと」において，文章を読んで感じたことや考えたことを共有し，一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃカ） 【態度】積極的に文章を読んで感じたことや考えたことを共有し，学習の見通しをもって，「読書発表会」で本を紹介しようとしている。
言葉が表す感じ，言葉から受ける感じ	△言葉や音が表すイメージや，イメージに即した言葉を考えたりすることによって，言葉の特性について考える。 △言葉には，考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。　⇒◎知技(1)ア △相手を見て話したり聞いたりするとともに，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などに注意して話すこと。　⇒知技(1)イ △考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。　⇒知技(2)ア ◇相手に伝わるように，理由や事例などを挙げながら，話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。　⇒◎思	◎【知技】言葉には，考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア） 【思判表】「話すこと・聞くこと」において，相手に伝わるように，理由や事例などを挙げながら，話の中心が明確になるように話の構成を考えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ａイ） 【態度】進んで，言葉には考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付こうとし，学習課題に沿って，言葉がもつイメージについて考えようとしている。

	判表Ａ(1)イ ◇話の中心や話す場面を意識して，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などを工夫すること。　⇒思判表Ａ(1)ウ ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き，話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え，自分の考えを持つこと。　⇒思判表Ａ(1)エ ◇互いの考えを伝えるなどして，グループや学級全体で話し合う活動。　⇒思判表Ａ(2)ウ	
二　目的や進め方をたしかめて話し合おう	◇司会者や発言者などの役割を果たしながら，話し合いの進行に合わせ，互いの考えをよく伝え合って話し合う。	
新スポーツを考えよう	△相手を見て話したり聞いたりするとともに，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などに注意して話すこと。　⇒知技(1)イ △考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。　⇒◎知技(2)ア △比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うこと。　⇒◎知技(2)イ ◇目的を意識して，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を比較したり分類したりして，伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。　⇒思判表Ａ(1)ア ◇相手に伝わるように，理由や事例などを挙げながら，話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。　⇒思判表Ａ(1)イ ◇話の中心や話す場面を意識して，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などを工夫すること。　⇒思判表Ａ(1)ウ ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き，話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え，自分の考えを持つこと。　⇒思判表Ａ(1)エ ◇目的や進め方を確認し，司会などの役割を果たしながら話し合い，互いの意見の共通点や相違点に着目して，考えをまとめること。　⇒◎思判表Ａ(1)オ ◇グループや学級全体での話し合いなど，考えを伝え合う活動。　⇒思判表Ａ(2)ウ ☆総合的な学習の時間・特別活動など：司会者や提案者・記録者などの役割を知り，分担して話し合いを進める。合意形成の仕方を学ぶことに生かせる。	◎【知技】考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア） ◎【知技】比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使っている。（〔知識及び技能〕(2)イ） ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において，目的や進め方を確認し，司会などの役割を果たしながら話し合い，互いの意見の共通点や相違点に着目して，考えをまとめている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ａオ） 【態度】積極的に目的や進め方を確認し，司会などの役割を果たし，学習の見通しをもってクラスで話し合おうとしている。
漢字の広場　④ いろいろな意味を表す漢字	△一つの漢字には，複数の意味がある場合が多いことを理解する。 △第３学年及び第４学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。　⇒◎知技(1)エ △比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うこと。　⇒知技(2)イ	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使い，学習課題に沿って，漢字がもつ複数の意味について考えようとしている。
漢字の広場　④ 三年生で学んだ漢字　④	△絵を見て想像したことをもとに，３年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第３学年及び第４学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。　⇒◎知技(1)エ △丁寧な言葉を使うとともに，敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。　⇒知技(1)キ ■書こうとしたことが明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けること。　⇒◎思判表Ｂ(1)オ ■詩や物語をつくるなど，感じたことや想像したことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ウ	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ） 【思判表】「書くこと」において，書こうとしたことが明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂオ） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い，学習課題に沿って，教科書の絵の中の言葉を使って文を書こうとしている。
三　大事な言葉や文に気をつけて要約しよう	□ウミガメの産卵や成長を研究する名古屋港水族館の取り組みを時系列に沿って読み，興味をもった点から整理して文章を要約する。	

ウミガメの命をつなぐ	△主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解すること。　⇒知技(1)カ △考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。　⇒◎知技(2)ア △比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うこと。　⇒◎知技(2)イ △幅広く読書に親しみ，読書が，必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。　⇒知技(3)オ ■書く内容の中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考えること。　⇒思判表Ｂ(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。　⇒思判表Ｂ(1)ウ ■書こうとしたことが明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けること。　⇒思判表Ｂ(1)オ □段落相互の関係に着目しながら，考えとそれを支える理由や事例との関係などについて，叙述を基に捉えること。⇒思判表Ｃ(1)ア □目的を意識して，中心となる語や文を見付けて要約すること。　⇒◎思判表Ｃ(1)ウ □文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもつこと。　⇒◎思判表Ｃ(1)オ □文章を読んで感じたことや考えたことを共有し，一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。　⇒思判表Ｃ(1)カ ■調べたことをまとめて報告するなど，事実やそれを基に考えたことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ア □記録や報告などの文章を読み，分かったことや考えたことを，本文を引用しながら説明したり意見を述べたりする活動。　⇒思判表Ｃ(2)ア	◎【知技】考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア） ◎【知技】比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使っている。（〔知識及び技能〕(2)イ） 【思判表】「書くこと」において，書く内容の中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂイ） ◎【思判表】「読むこと」において，目的を意識して，中心となる語や文を見付けて要約している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃウ） ◎【思判表】「読むこと」において，文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもっている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃオ） 【態度】積極的に，目的を意識して中心となる語や文を見付けて要約し，学習の見通しをもって，本教材の紹介文を書こうとして
二つのことがらをつなぐ	△二つの事柄をつなぐとき，使う言葉によって内容が大きく変わることを理解し，接続語のはたらきを意識して，正しく使い分ける。 △様子や行動，気持ちや性格を表す語句の量を増し，話や文章の中で使うとともに，言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し，語彙を豊かにすること。⇒知技(1)オ △主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解すること。　⇒◎知技(1)カ	◎【知技】主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解している。（〔知識及び技能〕(1)カ） 【態度】進んで接続する語句の役割について理解し，学習の見通しをもって，接続語のはたらきを意識して正しく使い分けようとしている。
四　調べたことをわかりやすく書こう	■図や写真などの資料を活用し，紙面を工夫して図鑑を作る。	
「不思議ずかん」を作ろう	△漢字と仮名を用いた表記，送り仮名の付け方，改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに，句読点を適切に打つこと。また，第３学年においては，日常使われている簡単な単語について，ローマ字で表記されたものを読み，ローマ字で書くこと。　⇒知技(1)ウ △考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。　⇒知技(2)ア △比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うこと。　⇒◎知技(2)イ ■相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒◎思判表Ｂ(1)ア ■書く内容の中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考えること。　⇒思判表Ｂ(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。　⇒◎思判表Ｂ(1)ウ ■間違いを正したり，相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして，文や文章を整えること。　⇒◎思判表Ｂ(1)エ ■書こうとしたことが明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けること。　⇒思判表Ｂ(1)オ ■調べたことをまとめて報告するなど，事実やそれを基に考えたことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ア	◎【知技】比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使っている。（〔知識及び技能〕(2)イ） ◎【思判表】「書くこと」において，相手や目的を意識して，経験したことから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にしている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂア） ◎【思判表】「書くこと」において，自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ） ◎【思判表】「書くこと」において，間違いを正したり，相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして，文や文章を整えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂエ） 【態度】積極的に，自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして書き表し方を工夫し，学習の見通しをもって「不思議ずかん」を作ろうとしている。

故事成語	△故事成語の意味を知り，友達に紹介するためのカードを作る。 △長い間使われてきたことわざや慣用句，故事成語などの意味を知り，使うこと。　⇒◎知技(3)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。　⇒◎思判表Ｂ(1)ウ ■調べたことをまとめて報告するなど，事実やそれを基に考えたことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ア ☆総合的な学習の時間・道徳：ことわざの成り立ちや意味について興味をもって調べたり，我が国の伝統や文化に目を向けたりする。	◎【知技】長い間使われてきたことわざや慣用句，故事成語などの意味を知り，使っている。（〔知識及び技能〕(3)イ） 【思判表】「書くこと」において，自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ） 【態度】積極的に，長い間使われてきた故事成語の意味を知り，学習の見通しをもってカードにまとめようとしている。
詩を楽しもう いろいろな詩 おおきな木 とびばこ　だんだん	□さまざまな形の作品を読みながら，詩の世界を楽しむ。 △文章全体の内容や構成の大体を意識しながら音読すること。　⇒◎知技(1)ク △幅広く読書に親しみ，読書が，必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。　⇒知技(3)オ □登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。　⇒◎思判表Ｃ(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもつこと。　⇒◎思判表Ｃ(1)オ □文章を読んで感じたことや考えたことを共有し，一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。　⇒思判表Ｃ(1)カ □詩や物語などを読み，内容を説明したり，考えたことなどを伝え合ったりする活動。　⇒思判表Ｃ(2)イ	◎【知技】文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。（〔知識及び技能〕(1)ク） ◎【思判表】「読むこと」において，登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃエ） ◎【思判表】「読むこと」において，文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもっている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃオ） 【態度】進んで，詩を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち，学習の見通しをもって発表し合おうとしている。
漢字の広場　⑤ 熟語のでき方	△二つの漢字を組み合わせた熟語の構成について，問題を解きながら確認し，二つの漢字のつながり方を考える。 △第３学年及び第４学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。　⇒◎知技(1)エ △比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うこと。　⇒知技(2)イ	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い，学習課題に沿って，二つの漢字を組み合わせた熟語の構成について考えようとしている。
漢字の広場　⑤ 三年生で学んだ漢字　⑤	△絵を見て想像したことをもとに，３年生で学んだ漢字などを使って文を書く。 △第３学年及び第４学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。　⇒◎知技(1)エ △丁寧な言葉を使うとともに，敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。　⇒知技(1)キ ■相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒◎思判表Ｂ(1)ア ■詩や物語をつくるなど，感じたことや想像したことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ウ	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ） 【思判表】「書くこと」において，相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にしている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂア） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い，学習課題に沿って，教科書の絵の中の言葉を使って文を書こうとしている。
五　自分の経験と結びつけて考えよう	◇「便利だな」と思うものを思い浮かべ，その理由から自分にとっての「便利」とはどういうことか話し合う。	
身のまわりの「便利」なものを考えよう	◇身のまわりの道具や設備などから「便利」なものを選び，使いやすくなる工夫を考えて話し合う。 △言葉には，考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。　⇒◎知技(1)ア ◇目的を意識して，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を比較したり分類したりして，伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。　⇒◎思判表Ａ(1)ア ◇目的や進め方を確認し，司会などの役割を果たしながら話し合い，互いの意見の共通点や相違点に着目して，考えをまとめること。　⇒思判表Ａ(1)オ ◇互いの考えを伝えるなどして，グループや学級全体で話し合う活動。　⇒思判表Ａ(2)ウ	◎【知技】言葉には，考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア） ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において，目的を意識して，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を比較したり分類したりして，伝え合うために必要な事柄を選んでいる。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ａア） 【態度】進んで，目的を意識して日常生活の中から集めた材料を比較したり分類したりし，学習の見通しをもって，クラス全体やグループで話し合おうとしている。

「便利」ということ	□「便利」とはどういうことかを考えながら読み，自分の経験と照らし合わせながら考えをまとめる。 △主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解すること。　⇒知技(1)カ △考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。　⇒◎知技(2)ア △比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うこと。　⇒◎知技(2)イ △幅広く読書に親しみ，読書が，必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。　⇒◎知技(3)オ ■書く内容の中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考えること。　⇒思判表Ｂ(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。　⇒思判表Ｂ(1)ウ ■書こうとしたことが明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けること。　⇒思判表Ｂ(1)オ □段落相互の関係に着目しながら，考えとそれを支える理由や事例との関係などについて，叙述を基に捉えること。　⇒思判表Ｃ(1)ア □目的を意識して，中心となる語や文を見付けて要約すること。　⇒思判表Ｃ(1)ウ □文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもつこと。　⇒◎思判表Ｃ(1)オ □文章を読んで感じたことや考えたことを共有し，一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。　⇒◎思判表Ｃ(1)カ ■詩や物語をつくるなど，感じたことや想像したことを書く活動。　⇒思判表(2)ウ □記録や報告などの文章を読み，分かったことや考えたことを，本文を引用しながら説明したり意見を述べたりする活動。　⇒思判表Ｃ(2)ア □学校図書館などを利用し，事典や図鑑などから情報を得て，分かったことなどをまとめて説明する活動。　⇒思判表Ｃ(2)ウ ☆道徳：本文の読みを通して「便利」について考え，相手のことを思いやり，助け合うことへの見方を深める。	◎【知技】考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア） ◎【知技】比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使っている。（〔知識及び技能〕(2)イ） ◎【知技】幅広く読書に親しみ，読書が，必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。（〔知識及び技能〕(3)オ） 【思判表】「書くこと」において，自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ） ◎【思判表】「読むこと」において，文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもっている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃオ） ◎【思判表】「読むこと」において，文章を読んで感じたことや考えたことを共有し，一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃカ） 【態度】積極的に，文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち，学習の見通しをもって，「便利」について考えたことを文章にまとめようとしている。
調べてわかったことを発表しよう	◇調べたことについて，写真や図，表やグラフなどを使って説明したり，話の中心に気をつけて聞いたりする。 △丁寧な言葉を使うとともに，敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。　⇒知技(1)キ △考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。　⇒知技(2)ア △比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うこと。　⇒◎知技(2)イ ◇目的を意識して，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を比較したり分類したりして，伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。　⇒思判表Ａ(1)ア ◇相手に伝わるように，理由や事例などを挙げながら，話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。　⇒思判表Ａ(1)イ ◇話の中心や話す場面を意識して，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などを工夫すること。　⇒◎思判表Ａ(1)ウ ◇必要なことを記録したり質問したりしながら聞き，話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え，自分の考えを持つこと。　⇒思判表Ａ(1)エ ◇質問するなどして情報を集めたり，それらを発表したりする活動。　⇒思判表Ａ(2)イ ☆社会科・理科・総合的な学習の時間など：調べたことや観察したことをポスターを使って効果的に発表する。	◎【知技】比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使っている。（〔知識及び技能〕(2)イ） ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において，話の中心や話す場面を意識して，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などを工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ａウ） 【態度】積極的に，話の中心や話す場面を意識して，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などを工夫し，見通しをもって調べたことを発表し合おうとしている。

点(，)を打つところ	△読点のはたらきを理解して，正しく使い分ける。 △漢字と仮名を用いた表記，送り仮名の付け方，改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに，句読点を適切に打つこと。また，第３学年においては，日常使われている簡単な単語について，ローマ字で表記されたものを読み，ローマ字で書くこと。　⇒◎知技(1)ウ △主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解すること。　⇒知技(1)カ	◎【知技】漢字と仮名を用いた表記，送り仮名の付け方，改行の仕方を理解して文や文章の中で使っているとともに，句読点を適切に打っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） 【態度】進んで句読点のはたらきを理解し，学習課題に沿って，文や文章の中で適切に使おうとしている。
六　伝えたいことをはっきりさせて書こう	■様子がわかるように，よりよい表現を選んで書く。	
自分の成長をふり返って	△漢字と仮名を用いた表記，送り仮名の付け方，改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに，句読点を適切に打つこと。また，第３学年においては，日常使われている簡単な単語について，ローマ字で表記されたものを読み，ローマ字で書くこと。　⇒◎知技(1)ウ △主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解すること。　⇒◎知技(1)カ △考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。　⇒知技(2)ア ■相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒思判表Ｂ(1)ア ■書く内容の中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考えること。　⇒思判表Ｂ(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。　⇒◎思判表Ｂ(1)ウ ■間違いを正したり，相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして，文や文章を整えること。　⇒◎思判表Ｂ(1)エ ■書こうとしたことが明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けること。　⇒◎思判表Ｂ(1)オ ■調べたことをまとめて報告するなど，事実やそれを基に考えたことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ア	◎【知技】漢字と仮名を用いた表記，送り仮名の付け方，改行の仕方を理解して文や文章の中で使っているとともに，句読点を適切に打っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） ◎【知技】主語と述語との関係，修飾と被修飾との関係，指示する語句と接続する語句の役割，段落の役割について理解している。（〔知識及び技能〕(1)カ） ◎【思判表】「書くこと」において，自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ） ◎【思判表】「書くこと」において，間違いを正したり，相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして，文や文章を整えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂエ） ◎【思判表】「書くこと」において，書こうとしたことが明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂオ） 【態度】積極的に，書こうとしたことが明確になっているかなど文章に対する感想や意見を伝え合い，学習の見通しをもって，よりよい表現を選んで文章を書こうとしている。
雪	△「雪」を扱った言語表現を集める。 △考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。　⇒知技(2)ア △長い間使われてきたことわざや慣用句，故事成語などの意味を知り，使うこと。　⇒◎知技(3)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。　⇒◎思判表Ｂ(1)ウ ■調べたことをまとめて報告するなど，事実やそれを基に考えたことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ア	◎【知技】長い間使われてきたことわざや慣用句，故事成語などの意味を知り，使っている。（〔知識及び技能〕(3)イ） 【思判表】「書くこと」において，自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ） 【態度】進んで，長い間使われてきた「雪」に関わる言葉の意味を知ろうとし，学習の見通しをもって「雪」に関する詩歌や言葉を集めようとしている。
漢字の広場　⑥ 同じ読み方の漢字の使い分け	△異字同訓や同音異義語の使い分けについて意識をもって，漢字を読んだり書いたりする。 △漢字と仮名を用いた表記，送り仮名の付け方，改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに，句読点を適切に打つこと。また，第３学年においては，日常使われている簡単な単語について，ローマ字で表記されたものを読み，ローマ字で書くこと。　⇒◎知技(1)ウ △第３学年及び第４学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。　⇒知技(1)エ △比較や分類の仕方，必要な語句などの書き留め方，引用の仕方や出典の示し方，辞書や事典の使い方を理解し使うこと。　⇒知技(2)イ	◎【知技】漢字と仮名を用いた表記，送り仮名の付け方，改行の仕方を理解して文や文章の中で使っているとともに，句読点を適切に打っている。（〔知識及び技能〕(1)ウ） 【態度】進んで同じ読み方の漢字の使い分けを理解し，学習課題に沿って，文や文章の中で正しく使おうとしている。
漢字の広場　⑥ 三年生で学んだ漢字　⑥	△絵を見て想像したことをもとに，３年生で学んだ漢字などを使って文を書く。	◎【知技】前学年や当該学年で配当されている漢字を文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ）

	△第３学年及び第４学年の各学年においては，学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また，当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き，文や文章の中で使うとともに，当該学年に配当されている漢字を漸次書き，文や文章の中で使うこと。　⇒◎知技(1)エ △丁寧な言葉を使うとともに，敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。　⇒知技(1)キ ■書く内容の中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考えること。　⇒◎思判表Ｂ(1)イ ■詩や物語をつくるなど，感じたことや想像したことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ウ	【思判表】「書くこと」において，書く内容の中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂイ） 【態度】積極的に前学年や当該学年で配当されている漢字を使い，学習課題に沿って，お話の一場面を書こうとしている。
七　場面のうつり変わりと，登場人物の気持ちの変化を読もう	□登場人物の考え方の違いや，その移り変わりを考えながら読み，気に入った場面を物語のように書きかえる。	
木竜うるし（人形げき）	△相手を見て話したり聞いたりするとともに，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などに注意して話すこと。　⇒◎知技(1)イ △文章全体の内容や構成の大体を意識しながら音読すること。　⇒知技(1)ク △幅広く読書に親しみ，読書が，必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。　⇒知技(3)オ ■書く内容の中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考えること。　⇒思判表Ｂ(1)イ ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。　⇒思判表Ｂ(1)ウ ■書こうとしたことが明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けること。　⇒思判表Ｂ(1)オ □場面の移り変わりや登場人物の行動，気持ちの変化などについて，叙述を基に捉えること。　⇒思判表Ｃ(1)イ □登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。　⇒思判表Ｃ(1)エ □文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもつこと。　⇒◎思判表Ｃ(1)オ □文章を読んで感じたことや考えたことを共有し，一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。　⇒◎思判表Ｃ(1)カ ■詩や物語をつくるなど，感じたことや想像したことを書く活動。　⇒思判表Ｂ(2)ウ □詩や物語などを読み，内容を説明したり，考えたことなどを伝え合ったりする活動。　⇒思判表Ｃ(2)イ ☆道徳：物語の読みをとおして，友達と互いに理解し，信頼し，助け合うことについての考え方を深める。	◎【知技】相手を見て話したり聞いたりしているとともに，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などに注意して話している。（〔知識及び技能〕(1)イ） 【思判表】「書くこと」において，書く内容の中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考えている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂイ） ◎【思判表】「読むこと」において，文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもっている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃオ） ◎【思判表】「読むこと」において，文章を読んで感じたことや考えたことを共有し，一人一人の感じ方などに違いがあることに気付いている。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｃカ） 【態度】積極的に，文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち，学習の見通しをもって，脚本を物語のように書きかえようとしている。
国語の学習　これまで　これから	◇一年間の国語学習を振り返ったり，これからの学習について考えたりして，すすんで学習できるようにする。 △相手を見て話したり聞いたりするとともに，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などに注意して話すこと。　⇒◎知技(1)イ △考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。　⇒知技(2)ア ◇目的を意識して，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を比較したり分類したりして，伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。　⇒思判表Ａ(1)ア ◇話の中心や話す場面を意識して，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などを工夫すること。　⇒◎思判表Ａ(1)ウ ■相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にすること。　⇒思判表Ｂ(1)ア ■自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。　⇒◎思判表Ｂ(1)ウ ◇説明や報告など調べたことを話したり，それらを聞いたりする活動。　⇒思判表Ａ(2)ア ■記録や報告などの文章を読み，分かったことや考えたことを，本文を引用しながら説明したり意見を述べたりする活動。　⇒思判表Ｂ(2)ア	◎【知技】相手を見て話したり聞いたりしているとともに，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などに注意して話している。（〔知識及び技能〕(1)イ） ◎【思判表】「話すこと・聞くこと」において，話の中心や話す場面を意識して，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などを工夫している。　（〔思考力，判断力，表現力等〕Ａウ） ◎【思判表】「書くこと」において，自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫している。（〔思考力，判断力，表現力等〕Ｂウ） 【態度】進んで話の中心や話す場面を意識して，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などを工夫し，今までの学習を生かして，１年間の国語の学習を振り返ったり次年への希望を話し合ったりしようとしている。